

# マリノベーション推進事業 (鋼製イワガキ増殖礁の開発)

三浦信昭

## 【目的】

天然岩礁及び増殖礁では一度付着したイワガキを漁獲した後、再付着し難いことから、鋼材の特性である錆びを利用し、採捕後に新しい基質を出現させることによって、稚貝の再付着を促進させるための試験を行い、鋼製イワガキ増殖礁の可能性を検討する。

試験礁の製作及び設置について日鐵建材工業株式会社が、試験礁の効果等の調査については水産振興センターが担当することとした。

## 【方法】

1. 実施期間 2000年9月
2. 実施場所 金浦町の地先海域
3. 調査方法

鋼製イワガキ増殖試験礁を製作・沈設した後、イワガキの付着状況、成長、生残及び基質の変化について定期的に潜水調査を実施する。また、人為的に基質表面を剥離し、再付着の状況についても調査を行う。

## 【結果】

本年度は、共同研究者である日鐵建材工業株式会社と試験礁の形状や調査方法などについての検討を行い、日鐵建材工業において試験礁の製作を行った。

試験礁の構造については図1に示した。表面処理を全く施さない鉄板をTYPE1及び2とした。イワガキを漁獲した直後の基質の状態を想定して、海水により錆を進行させた後、表面の錆を剥離した鉄板をTYPE3とした。イワガキを漁獲した後、しばらく経過した基質の状態を想定して、海水により錆を進行させただけの鉄板をTYPE4とした。

TYPE2～4については、海中に設置後、付着したイワガキが漁獲サイズになるまで放置し、成長、脱落、鋼材の腐食状況を調査する。TYPE1については、上面を6分割し、設置から1年経過するごとに1区画ずつ表面剥離を行って、再付着の様子を調査することとした。

試験礁は9月13日に金浦町地先の水深6mの海域に設置された。

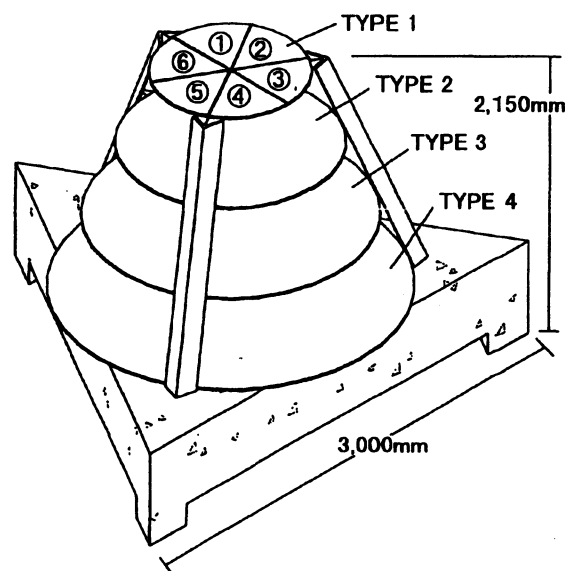


図1 試験礁の構造

TYPE 1・2：表面処理を施さない鉄板

TYPE 3：海水により錆を進行させた後、表面の錆を剥離した鉄板

TYPE 4：海水により錆を進行させた鉄板